

朔東にも、春到来である。積もり積もった雪が融け、地面の現れた官舎の庭の福寿草も蕾が大きく膨らんできた。黄色い可憐な花を咲かせてくれるだろう。芽室のミズバショウは、丁度GWの頃が見頃になるのではないかとの観光課の話であった。



（4月5日山下撮影於：官舎の庭）

北海道は湿原の多い地域である。朔東管内も、有数な湿原地帯である。ラムサール条約による登録湿地も数ある。

そのような湿原は、多種多様なお花畑でもある。4月上旬の福寿草を皮切りに水芭蕉、雪割子桜といった湿原の草花が順次に花咲き目を楽しませて呉れる。

先ず、何と言っても、日本最大規模の釧路湿原を挙げずばなるまい。3万ヘクタールといわれた当湿原も、開拓が進んだ結果今では2万弱haの広さになってしまった。海跡湖として3つの湖があり、冬にはわかさぎ釣り、夏はカヌーが楽しめる。また、日本一遅い列車ノロッコ号で雄大な湿原をゆっくり眺めるのも一興である。

（朔東から第22号を参照）

次に挙げるとすれば、その名も情緒豊かな霧多布湿原だろう。その名の通り、夏はしばしば厚い霧に包まれる。海岸に接するが如き低い地域の湿原なので、満潮時には、琵琶瀬川等を海水が逆流する。塩湿地の植物である厚岸草（厚岸で発見されたことから命名された。）やシバナ、ウミドリなどの群落が見られる。7月第一週には、エゾカンゾウ祭りが開かれる。

他には、標津町には標津川とポー川に挟まれる形で湿原が広がっている。上部を川上湿原、下流を三本木湿原と区分して呼ばれている。

能取湖に流れ込む卯原内川等の河川の河口域に小さな湿原がある。能取湖畔の湿原の特徴と言えば、塩湿地の植生である厚岸草、ここではその形から「サンゴ草」と呼ばれる群落である。アカザ科の一年草で秋に紅葉するが、まさに真紅のカーペットを敷き詰めた感がする。サンゴ草祭りが9月第2土・日曜日に開催される。

網走湖は、海水の混じる半涵水湖である。湖畔のハンノキ、ヤチダモの下に生えているミズバショウの群落が素晴らしい。4月下旬から5月上旬が見頃。

代表的な湿原に咲く花を咲く順番に挙げるならば、4月に入ると福寿草、下旬頃からはミズバショウ、5月中旬からはユキワリコザクラ、イソツツジだ。

6月の中旬になるとクロハナシノブ、クロユリ、ワタスゲの綿毛、ハマナス、センダイハギ、シコタンキンポウゲ、コツマトリソウ等が一斉に咲き揃う。

7月には、エゾカンゾウ、コケモモ、フタマタイチゲ、ヤナギトラノオ、ヒオウギウアヤメ、マタスゲ、ショウブ。

8月頃には、エゾノシモツケソウ、バイケイソウ、ホザキシモツケ、チシマアザミ、サワギキョウ、エゾミツハギが咲き、タチギボウシ、ノハナショウブが見頃になる。

湿原に咲く花の最後は、エゾリンドウやサンゴソウである。

湿原の周辺にもオオバナエンレイソウ、ツククサ、ニリンソウ等が折々に花を開いている。

(勿論、開花時期はその年の天候・気象の状況によって異なり、湿原毎に異なる。)

専門書で確認すれば良いのかもしれないが、湿原に3種『低層湿原(地面が水面より低く、いつも水に浸っているような状態)、中間湿原(地面と水面がほぼ同じであり、地表もある程度ある状態)、高層湿原(ミズゴケなどが密集し水面より高く表面は乾いている状態)』あって、湿原の状態により植物も異なっている。

原生花園として手っ取り早く湿原に咲く花を楽しめるところもある。北海道内の原生花園の分布状況を地図で確認した。宗谷地方に6個、紋別から斜里に至るオホーツク沿岸に7個であり、この両地方に集中していると言える。十勝支庁管内に3個の小さい原生花園があるほか、根室には、北方原生花園がある。朔東管内のみ列挙する。ワッカ原生花園(佐呂間町)、竜宮原生花園(佐呂間町)、能取原生花園(網走)、小清水原生花園(小清水)、以久科原生花園(斜里町)、トイトツキ原生花園&豊北原生花園(浦幌町)、大津原生花園(豊頃町)である。他の地図には、一本松原生花園(野付半島)、晩成海岸原生花園(大樹町)がある。他にもあるのかもしれない。お気づきの方は教えて頂きたい。

夫々の湿原には、遊歩道が整備され、展望台も随所に設置されているので、夫々の楽しみ方が出来よう。湿原センター、ネイチャーセンター、ビジターセンター等に立ち寄って楽しみ方を知ってからの方が何倍も楽しめるのではないだろうか。

勿論湿原の楽しみは、種々の花だけではない。天然記念物に指定されているオジロワシの他、渡り鳥で夏季を湿原で過ごすカワセミ、アオサギ、コヨシキリ、ノビタキ、オオジシギ、シマアオジ等が運が良ければ見られる。バードウォッチャーにはたまらないだろう。強運な人は、タンチョウ鶴にも会えるかもしれない。

(参考：百科事典、各種のパンフレット、道路地図や「ひがし北海道」観光地図、HP etc)